

令和5（2023）年度 静岡県立美術館 企画展ご利用案内

静岡県立美術館では、令和5年度も、幅広いテーマに基づいて企画展を開催します。大名家伝来の貴重な絵画から静岡ゆかりの現代美術まで、図工・美術はもちろん、社会、歴史など様々な学習に活用いただける内容です。ぜひ学校団体でご利用ください。

【令和5（2023）年度 企画展スケジュール】

4月18日（火）～7月9日（日）	センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術
7月25日（火）～9月18日（月・祝）	糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。
10月17日（火）～12月10日（日）	スーパースター 大 大名の名宝—永青文庫×静岡県美の狩野派展
2024年 2月10日（土）～3月27日（水）	あまつちこうさく 天地耕作展（仮称）

※すべて大学生以下無料です。

■ 引率の先生方は観覧料が減免になります。

詳しくは団体観覧お申込み時にお尋ねください。企画総務課 054-263-5755

■ 学校向けプログラムと組み合わせてご利用いただくこともできます。

詳細は各校に配布する『美術館教室のしおり』、または当館ウェブサイト「学校・先生向けプログラム」のページをご参照ください。事前に教育普及担当との調整が必要となります。

お気軽にお問い合わせください。学芸課 054-263-5857

「オンライン鑑賞教育プログラム」が出来ました！

学校からオンラインでご利用いただける鑑賞教育プログラムを新たに作成しました。ロダン館《地獄の門》のVRや、池大雅の屏風（重要文化財）の超高精細画像について、個々の端末を通して鑑賞し、表現の意図や特徴を感じ取ったり考えたりする内容です。お申込みは不要、当館ホームページに実施手順を掲載しておりますので、いつでもご利用いただけます！

〈お問合せ〉

静岡県立美術館 企画総務課 054-263-5755

学芸課 054-263-5857

〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

4月18日（火）～7月9日（日）

センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術

五感で楽しむ作品鑑賞—これが展覧会のテーマです。多くの芸術作品は、「見ること」を基本とします。本展では、「触れる、聴く、匂いを嗅ぐ、味わう」などのグループに作品を分類し、それぞれの感覚に働きかけたり、また過去に経験した感覚を思い出すことや、未体験の事柄を五感で想像することによって、作品の中へと入りこんでもらいます。

例えば…①触れる：

美術作品はいろいろな材料から作られています。主に立体作品が並ぶ展示室では、これらの素材や、作品のレプリカを触るコーナーを設けます。本物の作品に触っていただくことはできませんが、素材の手触りによって作品の質感を想像したり、レプリカに触って彫刻の形を確認することができます。触覚による体験的な学習ができる機会です。

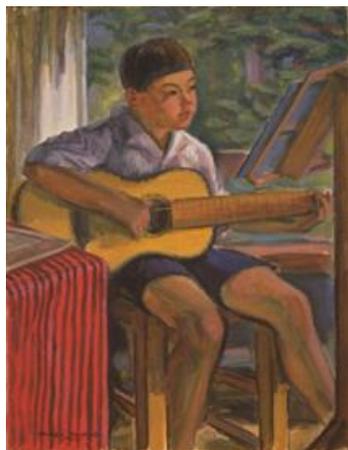
オーギュスト・ロダン 《考える人》（小型）
1880年（鑄造 1920年以前）



例えば…②音や匂いを思い出す、想像する：

楽器を演奏する人物や、都市のざわめきを感じられる光景を描いた絵画。嵐、川のせせらぎ、風の音や積雪など、四季折々の自然を表した風景画。このような作品から、心に浮かび上がるメロディー、自然の音や匂いの記憶をたどるとともに、まだ見ぬ描かれた世界への想像を膨らませることもできるのではないでしょうか。いろいろな感覚を意識した鑑賞体験は、今後の

美術鑑賞のヒントになります。



赤城泰舒 《ギターを弾く少年》1928年



クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ 《嵐の海》1740年頃

静岡県立美術館の様々な作品 90点を一挙公開：

17世紀の古い西洋絵画や版画から、現代の草間彌生まで、静岡県立美術館のコレクションから、約90点の絵画・版画・立体などの作品を一挙ご紹介いたします。今日、インターネットやデジタルメディアなどにより、芸術体験は気軽かつ身近なものとなりました。この展覧会では、人のもつ感覚によって、作品を楽しみながらリアルに感じていただきたいと思います。



原勝郎 《静物（洋梨と壺）》1950年

*画像の作品はすべて静岡県立美術館所蔵品です。

7月25日（火）～9月18日（月・祝）

糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。

手仕事の温もりと美しさによって、幅広い層に人気を博している刺繍^{ししゅう}は、伝統的な装飾品から日用雑貨にいたるまで、様々な形で現代の生活に浸透しています。本展では、東欧の交差路スロヴァキアやトランシルヴァニアの伝統的な刺繍を施した衣装やテキスタイルを展示するほか、独特の造形とあざやかな色彩が様々なアーティストにも刺激を与えているイヌイットの壁掛け、さらには、絵本の挿絵として制作されたのびやかな作品や精緻なオートクチュール刺繍まで、刺繍をめぐるアートを複数の角度から紹介します。



左：スロヴァキア北西部トレンチン地方のエプロン 1920年 スロヴァキア民俗芸術制作センター蔵

中：エヴァ・ヴォルフヴォヴァー『フリドリーナとアントニーナと小さなミナ』絵本原画 2019年 作家蔵

右：アイリーン・アヴァーラーキアク《ダッフル製壁掛け〈赤いダッフルの上の三つの精〉》北海道立北方民族博物館蔵

東欧、カナダ、フランス、そして、日本—刺繍を通して多様な文化に触れる機会です。

ルーマニアやスロヴァキアの民俗衣装にはじまり、カナダの極北地域で暮らすイヌイットの文化や価値観を反映して壁掛け、京都・祇園祭の鉾の装飾にも用いられる日本の伝統刺繍、そして、フランスのオートクチュールまでをご紹介します。刺繍という切り口で、異なる国や文化の多様性に触れることができます。

小さな子どもから大人まで、あらゆる世代にお楽しみいただけるラインナップです。

あざやかな色彩と自由で大胆な造形が特徴のイヌイットの壁掛けや、ユーモラスなイラストで人気を博した童画家・武井武雄原案による作品、ネコやクマ、小さな少年などが活躍する絵本の挿絵など、子どもが楽しめる刺繍作品が数多く登場します。一方で、日本古来の素材や技法を忠実かつ精緻に再現する京刺繍や、ディオールなど高級メゾンのオートクチュールを手掛ける工房の作品など、大人が見ても興味深い作例がならびます。

絵画や彫刻ではない、刺繍という技法を通して表現活動の新たな可能性に出会えます。

ふだんは絵画や彫刻を展示している当館で、刺繍を中心とする展覧会を開催するのは今回が初の試みとなります。世界各地で生活の一部として営まれてきた刺繍に美術館の展示室で出会うことで、絵画や彫刻以外の、従来美術とはみなされてこなかった表現活動の可能性にも目を向けていただけたら幸いです。

10月17日(火)～12月10日(日)

大大名(スーパースター)の名宝 —永青文庫×静岡県美の狩野派展

永青文庫は、^{だいたいみょう}大大名・細川家に伝来した作品を擁する美術館で、大名家伝来の作品を保管する美術館・博物館のなかでも屈指のコレクションを有しています。

永青文庫のコレクションは質量に優れ、その内容は多岐に及んでいますが、狩野派作品の宝庫であることは、あまり知られていません。

本展は、永青文庫の狩野派の優品を選び、静岡県立美術館の狩野派作品を組み合わせ、展示することで、狩野派の名品を時系列にたどる展覧会です。江戸狩野派の主流による名品で成り立つ両館のコレクションを掛け合わせることで、江戸狩野派の新たな魅力を発掘します。



狩野元信《細川澄元像》
1507年 永青文庫蔵



狩野山楽《狩獵図》桃山時代末 永青文庫蔵

室町時代から江戸時代までの狩野派のメインストリームをたどれます。

400年の間、日本の画壇の中心で活躍した狩野派の歴史を一望することができます。

大大名・細川家のコレクションを静岡でまとめて見られます。

数ある大名家のなかでもとりわけ格の高い細川家のコレクションは、名品、傑作揃いです。静岡でまとめて見られる機会が希少です。

大名家の道具を実際に見ることで、大名家の文化に触れることができます。

普段の生活では、掛け軸や屏風、巻物などを見る機会はありませんが、それ以外にも、画帖、刀掛など、大名家のさまざまな道具をご紹介します。歴史に対する興味や理解の深まりに結びつけることができます。

2024年2月10日（土）～3月27日（水）

天地耕作展（仮称）

天地耕作（あまつちこうさく）は、旧引佐郡（現浜松市）出身の村上誠、渡兄弟と山本裕司の3人によって結成されたグループです。1988年から2003年までの活動期間において、彼らは、木や縄、石や土などの自然素材を使って野外に大がかりな作品を制作しました。自身が所有する土地や採石場跡地などを制作＝発表の場所として、主流の美術の世界から距離を保ち、表現の根源を見つめ直しました。

本展では、写真作品や豊富な資料により、天地耕作の全活動を辿ります。また、美術館裏山に、未完となっていた2003年の野外作品のプランを完成させ、公開します。



山本裕司《氏神の祠》
（旧引佐郡引佐町渋川）1988-89年



村上誠・渡《産土-その二》
（旧引佐郡引佐町谷下）1991年



村上誠・渡《産土-その四》
（旧浜北市姥ヶ谷）1994年



山本裕司《墳墓-その七》
（フィンランド、オリベシ市郊外）1997年

少数の目撃者しかいない、地元作家による知られざる作品をご覧ください。

天地耕作は、美術館や画廊ではなく、自分たちの私有地や採石場跡などの野外で発表しました。その後、それらは放置や解体により失われ、もう見ることはできません。知る人ぞ知る彼らの活動の全貌を、写真や資料で明らかにします。静岡県ゆかりの現代作家の活動に触れることで、地域に対する愛着と理解を深めます。

自然と民俗への関心が融合した表現です。

天地耕作の3人は、遠州や奥三河の民俗芸能をはじめ、全国の遺跡など、民俗学者や考古学者のようにフィールドワークを行いました。彼らの作品は、私たちの自然観や民俗を土台として、生み出されたものと言えるでしょう。

美術館裏山に野外作品を展示します。

当館の裏山は散策路として様々な人に親しまれています。そこに、大型の野外作品を現地制作します。展覧会期中だけの期間限定の展示です。